の驍勇なれバ崩山破石も怖れ得ず。藤蘿に渉り樹石を廻ひ。辛ふして絶頂に登り。心静に城中の。動静虚実を得と視澄し。畏氣もなく亦元の間道を下り来る。葎草しげれる叢陰に一炮ひゞくハ暗号にや。埋伏なしたる城兵共一度に吶と発起つ。加藤蜂須賀驚とせしが。大膽不敵なれバこそ少しも騒がず。餓鬼同然の弊漏〻武者目に物視せんといふ様に。猛氣の主従二十余人。奮突裂振ゆくさまにまかせ。溪間へ蹴落し斬落し。中に虎之助清正ハ。檜の大木を背楯に取弓に矢番へ。散〻に近進る敵を六七騎。右倒左顚に射伏したるが。矢種盡れバ太刀抜そばめ。頭脚面背刀のまに〳〵。蘿蔔菁菜を屠るが如く。殺盡〻と砍て繞る。去主に従ふ木村弁之丞なんどの暴強者。飛虎の砂石を飛すが如く。喚叫んで戦ひたるこれに劣らで蜂須賀主従。四角八面に斬散せバ。百余人の城兵共。途をうしなひて敗走を。小六家政。勝に乗て。追蒐んとするを清正制止し。事を好まで帰りぬれど。敵捨たる首七ツ八ツ。従者に持せて。山路をいそぎ本陣當て立帰る。城兵猶も人数を増し。再び追出たりしかども。影だに見えざれバ手を空しく。瞋罵て退返せ。加藤蜂須賀主従ハ。本陣へ立帰り城中困苦の所見らる。途中埋伏の軍の始終。捕たる賊どもを差出して。仔細に言状せしかバ。秀吉いたく感佩なし。褒賞あつく賜ハりけり

鳥取城吉川経家自害屬馬野對陣

座して食へバ山海とも空しといふこと。鯤鵬の譚に似たれども。今や鳥取の城内ハ。飢渇殆究し竟じて。十月央に到るころハ木の葉草子も喫盡し。牛馬を殺し。百姓を殺して。その肉を争食こと。餓ゆる者が出生